

あなたと 青山学院



地の塩、世の光
The Salt of the Earth, The Light of the World

青山学院スクール・モットー

36万人の卒業生と母校をつなぐ「絆」

July 2019 No.30

今号の聖句

柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ。

マタイ 5:5



相川前会長(左)と関根新会長(右)

新旧校友会会長対談

青山学院校友会が発足して125年 新しい時代の校友会像を 模索していきたい

6月29日(土)に高等部PS講堂で開催された2019年度代議員総会で、相川和宏氏が校友会会長を退任し、関根茂氏が新会長として承認されました。3期6年間にわたる相川会長のもと、校友会はどのような成果を収めることができたのでしょうか。新旧校友会会長が、これまでの校友会活動を振り返るとともに、今後の展望や母校への思いを語り合いました。

校友会財政、立て直しの6年

相川：6年前、代議員総会で校友会会長に選任され、最初は「まさか、自分が…」と思いました。その後、オーナー会に出席し、自己紹介したときに「校友会会長の相川です」と言った途端に頭の中が真っ白になったところから始まり、3期6年。長かったですが、交代すると思うと、短かった気がします。

関根：私の場合は、校友会といえばゴルフの同好会を知っている程度で、学校に関してもほとんど知識という人脈もありませんでした。ですから、会長候補のお話をいただいたときには青天の霹靂で、到底、自分には務まらないと思い、お断りしたのですが、相川さんも「まさか」という思いでスタートされたのですね。

相川：就任1年目は校友会内部、とくに支部との関係に課題を抱えた状態で引き継ぎましたので、まずは関係改善に取り組む必要があると考えました。そのためには顔と顔を合わせてお話しすることが大事だと思い、初年度はお誘いを受けたところはすべて出席するようにしました。そうしてじかにお話しするようにしたところ、1年もたたないうちに、わだかまりもなくなってきました。そして、箱根駅伝に出場し、シード権が取れ、優勝して…となってきて、青山学院の同窓として一つにまとまり、みんなの思いが一緒になってきたと感じられるようになってきました。原監督に大変感謝しております。

その次に取り組んだのは、もともと行っていた校友会の財政体制の立て直しです。会費は2006年から1万円のまま変わっていません

でした。しかし、毎年、卒業生の数は増えていきますから、たとえば『あなたと青山学院』にしても、発行部数が毎年5,000部ずつ増え、必要な経費も増大していきます。そうなれば財政状況が苦しくなるのは当たり前です。これを改善するのが私の役目だと考え、当時の学院執行部に粘り強くお願いするものの、「理解できるけれども、初等部から大学までをまとめるのは非常に難しい」と言われ続けていました。転機となったのは、2015年。現在の堀田宣彌理事長が就任され、校友会の厳しい財政状況にご理解・ご協力をいただけるようになりました。また、大学については、三木義一大学学長が非常に強い指導力を発揮してまとめてくださり、2期目の終わりまでに会費の引き上げにめどがつかしました。

関根：校友会の皆さんのために全力を尽くしてこれたのがよく分かります。

相川：当初は「この2期目までで会長は交代を…」と思っていました。ところが、会費問題について大学で結論が出ず、「せつかくここまで進めてきたことをゼロに戻してはならない」と、3期目を引き受けました。これから大学部会のことなども進めたいと思っていたのですが、健康上の問題で思い通りに行かなくなりました。自分自身、これが一番不本意に思うところでした。

海外展開も視野に

関根：私にお声がかかったのは、たぶん相川さんがいろいろ積み上げてこれたもののめどが立ち、逆に、これまで校友会との直接的な関わりがなかった私のような人間が別の観点でやったらど

うかということでしょうか。

相川：実は関根さんとはかかりつけ医が一緒でありながら、「灯台下暗し」で、適任者がすぐそばにいることに全然気づかずにいたのです。それが「アメリカの大学の同窓会の会長を務めるなど、学校に大変造詣が深いのが関根くんだよ」という話を聞き、ぜひ後任をお願いしたいと考えました。これからの青山学院の、とくに大学のグローバル化には、必ず関根さんが必要とされる。私とはまるきり180度違うので、次をやっていただくのにはいいなという気持ちでした。仕事でも何でもそうですが、ものが動くときは「天の時、地の利、人の和」の3つが続くものです。今回もまさにそうで、推薦されたと聞き、大変うれしく思いました。

関根：私は高等部から青山学院で、高校、大学は本当に楽しい学生生活を送りました。卒業後は外資系の銀行に就職し、そこで上司から将来のことを考え、アメリカにMBA留学することを勧められ、入学したのがサウスカロライナ大学です。当時は、今のような電子辞書などもなければ、英語を習う場所も機会もなく、渡米して最初の3カ月くらいは本当に必死に勉強しました。そこで2年余り、修士課程で学んで帰国し、50歳を過ぎてから再びハーバード・ビジネススクールの経営者専門のプログラムで勉強しました。そのプログラムは青山学院にも参考になると思いますが、1単位は1カ月です。1カ月間、ハーバードで教授らとディスカッションを行い、日本に戻って、教わったことを実践するというのを3年間、3回繰り返しました。学問というより、実務に役に立つ
(2面に続く)

CONTENTS

校友会	新旧校友会会長対談	1
校友会	新旧校友会会長対談 日曜日には教会へ行ってみよう	2
学校法人	三大駅伝報告会 今号の聖句	3
学校法人	トピックス	4
学校法人	青学ニュース	5
校友会	支部ニュース	6
校友会	部会・同窓会ニュース	7

校友会	第26回 青山学院大学同窓祭	9
校友会	アイビーグループニュース	10
校友会	あのころ・そして・いま/NHKラジオ講座 講師 杉田 敏さん	12
校友会	青学商店街	13
学校法人	Useful Information	14
学校法人	青山学院からのお知らせとお願い	15
校友会	校友会本部ニュース	16